

メバチ 中西部太平洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

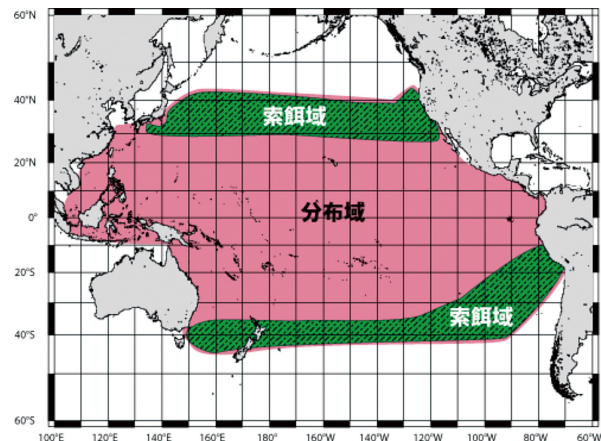
太平洋におけるメバチの漁獲量は、1980 年以降 12 ~ 29 万トンの間で推移している。2012 年の太平洋における漁獲量は 256,185 トンであり、最近 2 年間よりも多く、最近 10 年間の平均レベルであった。そのうち中西部太平洋 (WCPFC 条約水域) は 161,561 トンで、太平洋全体の約 63% であった。本海域におけるメバチの資源評価は 2011 年に行われた。漁獲死亡を MSY レベルにとどめるためには、2006 ~ 2009 年漁獲死亡レベルの 31.5% の削減が必要である。現在の資源状態は、 $B_{current}/B_{MSY}$ が 1.25、親魚資源量では $SB_{current}/SB_{MSY}$ が 1.19 といずれも 1 を上回っており、乱獲状態にはない。また、もし小型魚の死亡が減少すれば、MSY は増加し、現在よりも多くの漁獲が許容されると考えられる。

生物学的特性

- 寿命：10 ~ 15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年、表面水温 24℃ 以上の海域
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料



太平洋におけるメバチの分布

漁業の特徴

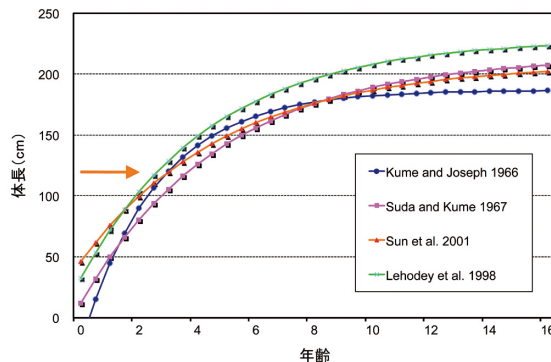
本種の主要な漁業はやや深い水深帯 (100 ~ 250 m) をねらうはえ縄と、表層付近をねらうまき網及び竿釣りである。従来、はえ縄の漁獲が安定的に大半を占め、主に 100 cm 以上の中・大型魚を漁獲してきた。一方、表層では 30 ~ 100 cm 未満の小型魚を漁獲する。1990 年代からの人工浮き魚礁 (FADs) を用いたまき網操業で小型魚の漁獲が急増し、大きく資源にインパクトを与えている。はえ縄漁獲物の多くは我が国市場向けの刺身用だが、まき網漁獲物は缶詰原料となる。はえ縄漁業国は日本、台湾、韓国、中国等であり、主要なまき網漁業国は米国、台湾、フィリピン、日本などである。

漁業資源の動向

本種ははえ縄、まき網、竿釣り、手釣り等で漁獲される。主要な漁業はまき網とはえ縄であり、主に赤道域で漁獲されているが、はえ縄は亜熱帯域 (例えば日本東方及びオーストラリア東方沖) でもある程度漁獲している。また、フィリピンとインドネシアの小型まき網やひき縄等によって小型魚が多く漁獲されている。太平洋におけるメバチの漁獲量は 1980 年代初頭のおよそ 12 万トンから徐々に増加し、12 ~ 29 万トンの間で推移している。2012 年の太平洋における本種の漁獲量は 256,185 トンであり、最近 2 年間よりも多く、ほぼ最近 10 年間の平均レベルであった。

資源状態

MSY は 74,993 トンと推定され、近年の漁獲量はそれを大きく上回っている。近年の漁獲レベルは近年の高い加入を仮定しても、長期間維持することはできないと結論される。 $F_{current}/F_{MSY}$ は全てのケースで 1 を上回っており、ベースケースでは 1.46 と推定され、漁獲死亡を MSY レベルにまで減少させるためには、2006 ~ 2009 年漁獲死亡レベルの 31.5% の削減が必要である。現在の資源状態は $B_{current}/B_{MSY}$ が 1.25、親魚資源量では $SB_{current}/SB_{MSY}$ が 1.19 といずれも 1 を上回っており、親魚資源が MSY レベルを下回っている確率は 13% と推定され、乱獲状態にはない。小型魚の死亡が減少すれば、MSY は増加し、現在よりも多くの漁獲が許容されると考えられる。



中西部太平洋メバチの年齢と成長
矢印はほぼ全ての個体が成熟する体長 (尾叉長 120 cm) を示す

管理方策

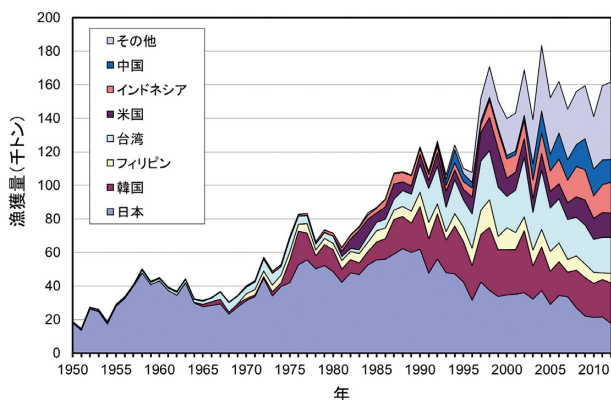
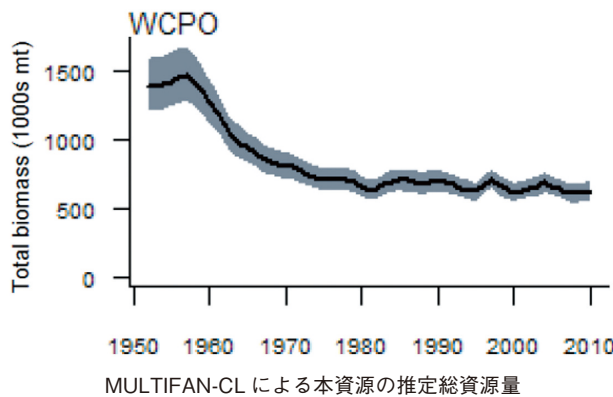
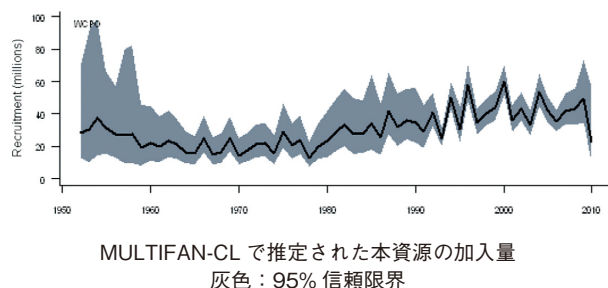
2013 年 12 月に開催された WCPFC 本会合において、2014～2017 年のメバチの漁獲を規制強化する措置が合意された。

(a) まき網漁業
集魚装置を用いた操業の 3 ヶ月間禁止に加え、2017 年に、公海の集魚装置の使用を禁止し、それまで段階的に集魚装置の使用数の削減又は 2 ヶ月間の使用禁止措置延長

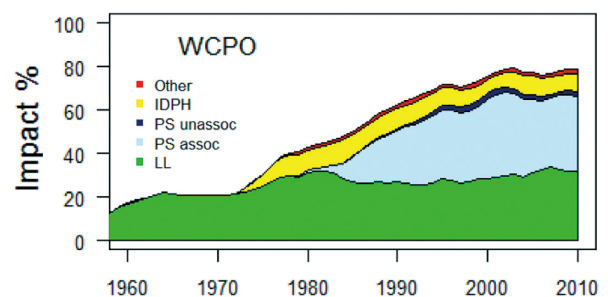
(b) はえ縄漁業
メバチの漁獲量を 2001～2004 年の平均値から 40% 削減 (2014 年から段階的に実施)

資源評価まとめ

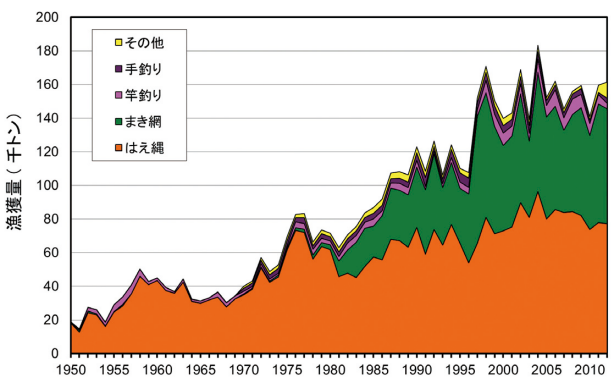
- WCPFC からの委託により、SPC の OFP (Oceanic Fisheries Programme) が実施
- 統合モデルである Multifan-CL により評価
- 資源水準は中位で減少



中西部太平洋におけるメバチの国別漁獲量年変化



MULTIFAN-CL による本資源への各漁業のインパクト
緑がはえ縄、青がまき網素群れ、水色がまき網付き群れ、黄がフィリピン・インドネシアの漁業、赤がその他を表す。



中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量年変化

メバチ (中西部太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	14.1～16.2 万トン 平均：15.6 万トン (2008～2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.8～2.7 万トン 平均：2.2 万トン (2008～2012 年)